

親切な方が本スレでAudacity（以下Auda）とReaperでvstプラグインを使っ
ての「初心者にもできる凝ったエフェクト」の作業工程を文にしてくださったので紹介します。

文中にある見本mp3などのデータは載せられませんので、
自分で録った歌声と歌いたいカラオケを用意して、
文と照らし合わせながら作業をしてください。

「初めてだから見本とかねえとわかんねーよ！」という方、
習うより慣れよ！です。まずは実際にやってみてください。
どのようになれば正解、などはありません。
あまりに変な事にならなければ気にせず続けてみましょう。
慣れてきたら自分なりに数値を変えてアレンジしてみてください。
とにかく色々試してみる事が大事です。

親みに文中の編集している歌声は女性ボーカルです。

準備。

今回はAudaのみを使用しました。

今回使うvstプラグイン。読む前に先に使えるようにしておく作業が楽かも。

ハイパス、[リンク](#) 「yp_effect」
リミッター、[リンク](#) 左メニューのW1 Limiter Free DLLで「W1 Limiter」
シェイパー、[リンク](#) 左メニューのDownload 「RubyTube」

vstプラグインは落としたままのAudaでは使えないのでvst-bridgeというソフトをAudaに入れる必要があります。
[これ](#)を落として、中の「vst-bridge」をAudaをインストールしたフォルダの下にある
「Plug-Ins」というフォルダの中に入れてください。
これでvstプラグインを同じフォルダに入れれば動くようになります。
他のvstプラグインも全部「Plug-Ins」フォルダで。

以下本文。（少し改変してあります）

まずはノイズ落としのフィルタから。一番下のリンクから
<http://yppts.dyndns.org:18080/music/software/>
に行って「yp_effect」というファイルをダウンロードして、解凍して出てくる
ファイル（フォルダの中身）を、Audaをインストールしたフォルダの下にある
「Plug-Ins」というフォルダの中に入れましょう。
03br1.mp3と04br2.mp3とカラオケ.mp3をAudaに読み込んだら作業開始です。

正規化

まず歌のトラックを適当に選んで、解析メニューからスペクトル表示をします。左下の
設定は「スペクトラム表示、16384、Hanningウィンドウ、対数周波数軸」で、200Hzくらいから下がごっそりないのがわ
かると思います。これより低い声は出ていないということで、これより低い音は全部ノイズなので消します。

フィルタやEQ（イコライザ）をかけると波形が乱れるので、必ず最初に音量を調整するのを
忘れないでください。Audaなら、効果メニューから正規化を選んで、両方チェックを
入れたままOKを押せば勝手にやってくれます。

Bandpass Filter（フィルタ）

ボーカルのトラック全体を選んで、効果メニューから「Bandpass Filter」を選びます。200Hzで切ると歌が巻き込まれる可能性があるため、2割くらい余裕を見て160Hzで切りましょう。設定は上から順に「1、2、160、0.7」。これで160Hzより低い音が消えます。

次はEQ（イコライザ）を使います。
なんで音量調整の前にEQを使うのかというと「音が小さくてもよく聞こえる」ようにするためです。

Peaking Equalizer（イコライザ）

正規化してスペアナを見ましょう。伴奏は700Hzくらいがちょっとへこんでいて、2500Hzくらいがちょっと膨らんでると思います。ボーカルで大事な周波数は3000Hzくらいなので、これは削ります。効果メニューから「Peaking Equalizer」を選んで、2500Hzを6db削りましょう。設定は上から順に「2500、-6、1」だ。最後の「1」は変えないほうがいいです。

ボーカルもスペアナで見ましょう。正規化はフィルタのときにやったからかけなくていいです。3000Hzくらいの大事な周波数はけっこう出ていますが、低音がちょっと弱い感じもします。今回は、せっかく伴奏がへこんでいるので700Hzを強調してみることにします。設定は上から順に「700、4.5、1」にしました。

増幅

まずボーカルの音量を0dBまで上げます。Audaなら効果メニューから増幅を選んで「新しい最大振幅」を「0」にしてOK。さらにリミッターというエフェクトをかけます。

Hard Limiter（リミッター）

これは何かというと、音量が一瞬だけ飛び出て大きい部分を引っ込めるもの。これを使っておくとコンプやシェイパーの使い勝手がよくなります。

<http://www.yohng.com/>

このリミッターを使います。設定は上から順に「0.85、1、0.75」です。ちょっと強い気もしますが、気になるなら「0.9、1、0.75」くらいにしてください。調整するのは一番上の数字だけで、使うときは必ず0dBまで増幅してから。

Ruby Tube（シェイパー）

つぎにシェイパーを使います。

<http://www.silverspike.com/>

このRubyTubeを使います。シェイパーとは波形を丸くしたり四角くしたりするエフェクトだと思っていいです。キモ声を誤魔化すのにどうぞ。

設定は上から順に「0.4、0、0、1」くらい。調整するのは一番上の数字だけでいいです。これを0.6~0.8くらいまで上げると、さっき言ったオーバードライブになります。さらに0.8~1.0くらいまで上げるとディストーションという名前で呼ばれるようになります。今回は、イントロを0.4、中間を0.5、ラストを0.6にしてみました。

これでやっと音量を調整する準備が整ったわけですが、このくらい準備しておくとも音量調整もスムーズにできます。

Zipに入っているのはここまででできたファイル。伴奏は-9dBに、歌は-6dBにノーマライズしてあります。

GVerb (リバーブ) < 「その2」以降が面倒なのでここまでにしたい人用 >

ここまで折角準備をしたので、簡単なエフェクトをかけます。
ここでは「GVerb」を紹介。
設定は上から順に「40、4、0.9、0.75、0、-22、-28」くらい。
これで若干エコーがかかって聞き心地のいい声になるはずですが、
初心者ならここまでできれば上出来でしょう。

次は切り張りとか音量の細かい調整や位置合わせなどを
紹介します。それでは、お疲れ様でした。

補足

EQを使うところでスペアナを何回か使いましたが、実際には耳のほうが大事なので、どの辺の音を削ったら歌がとおりやすくなるか、何回も聞いて耳で判断してください。機械だけに頼ると、あとで聞いて「ええー」とか思うこともあります。慣れないうちは伴奏だけ加工して、ボーカルにはあまり触らないほうがよろしいかと思います。

[その2](#)

[その3](#)

[その4](#)

[その5](#)

[その6](#)

[最後](#)